

予 算 審 査 特 別 委 員 会

平成30年3月13日
午前9時 開議
於 斑鳩町第一会議室

議 長

伴 吉 晴

委 員 長

木 澤 正 男

副 委 員 長

平 川 理 恵

出 席 委 員

小 林 誠

小 村 尚 己

井 上 卓 也

坂 口 徹

奥 村 容 子

理 事 者 出 席

町 長

中 西 和 夫

副 町 長

乾 善 亮

教 育 長

藤 原 伸 宏

総 務 部 長

面 卷 昭 男

同 次 長

谷 口 智 子

総 務 課 長

仲 村 佳 真

まちづくり政策課長

安 藤 容 子

財 政 課 長

福 居 哲 也

税 務 課 長

本 庄 徳 光

健康福祉部長

黒 崎 益 範

同 次 長

加 藤 恵 三

健康対策課長

北 典 子

生活環境部長

植 村 俊 彦

環境対策課長

栗 本 公 生

住 民 課 長

浦 野 歩 美

都市建設部長

谷 口 裕 司

建設農林課長

上 田 俊 雄

都市整備課長

松 岡 洋 右

会 計 管 理 者

藤 川 岳 志

教委総務課長

安 藤 晴 康

同 課 長 補 佐

岡 村 智 生

同 係 長

田 中 弘 二

生涯学習課長

中 原 潤

同 参 事

井 上 貴 至

同 課 長 補 佐

平 田 政 彦

議 会 事 務 局 職 員

議 会 事 務 局 長

真 弓 啓

同 局 長 補 佐

大 塚 美 季

(午前9時00分 開議)

○木澤委員長 おはようございます。

ただいまから再開し、直ちに本日の会議を開きます。

昨日に引き続き、審査を行ってまいりたいと思います。

まず、植村生活環境部長から、昨日の答弁について訂正があるとお申し出がありましたので、お聞きしたいと思います。

植村生活環境部長。

○植村生活環境部長 おはようございます。昨日、本委員会で、国民健康保険特別会計の質疑の中で、県支出金の特定健診等負担金の負担割合につきまして、私4分の3とお答えいたしましたが、3分の2の誤りでございました。お詫びして訂正をいたします。よろしくお願いをいたします。

○木澤委員長 はい、わかりました。ただいまのご説明いただきましたことについて、質疑、ご意見がございましたら、お受けしたいと思いますが、ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○木澤委員長 それでは、次に、中原生涯学習課長から、昨日答弁できていなかった質問に対する答弁の申し出がありますので、お聞きしたいと思います。

中原生涯学習課長。

○中原生涯学習課長 おはようございます。昨日ご質問いただきました学童保育の平成29年度当初の支援員の数でございますけれども、25名でございます。よろしくお願いをいたします。

○木澤委員長 ただいま答弁いただきましたことについて、質疑、ご意見がございましたら、お受けいたします。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○木澤委員長 それでは、昨日は、第9款 教育費の説明までで終わっていますので、教育費に対する質疑をお受けしたいと思います。どなたからでも構いません。どうぞ。

坂口委員。

○坂口委員 そうしましたら、予算の概要の83ページ、電子図書館サービスの充実ということで、電子図書館サービスをやっていただいているんですけど、登録者人数というものがわかったらちょっと教えていただきたいんです。

○木澤委員長 中原生涯学習課長。

○中原生涯学習課長 電子図書館サービスの登録状況ということですが、この2月

末の現在で累計 332 名の方に登録をいただいているところでございます。

○木澤委員長 坂口委員。

○坂口委員 もうちょっと利用者あるか、多いかなと思ったんですけど、ふやしていただけるように努力していただきたいと思います。

以上です。

○木澤委員長 中原生涯学習課長。

○中原生涯学習課長 この周知につきましては、いろんなさまざまな方法により周知をさせていただいているところですが、さらにそちらのほう力を入れてやっていきたいと思います。

○木澤委員長 ほかにございませんか。小村委員。

○小村委員 予算の概要のほうでさせていただきたいんですけども、85 ページなんですけれども、小学校の情報教育の推進に関しては、昨年度より予算が減っていて、中学校は大幅にふえている。タブレットパソコンの入れかえ等だと思うんですけども、この小学校は減っていて、中学校はふえているというこの予算の中身について、ちょっと教えてください。

○木澤委員長 安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 小学校、中学校のタブレット型パソコンへの更新なんですけれども、平成30年度におきましては、まずは中学校のコンピューター室のパソコンですね、タブレット型パソコンに更新をしていくということで予算計上しております。

小学校につきましては、中学校の更新を終えてからですね、年次的にですね更新をかけていこうということを考えておまして、ですので、小学校のこの予算843万7,000円が497万6,000円に下がっておりますのは、平成30年の8月で今小学校はリース、デスクトップ型パソコンのリースを行っております、平成30年8月でそれを満了を迎えますので、満了を迎えたらそのまま継続してですね、そのパソコンは使おうということを考えておまして、ですので、小学校のほうにつきましては予算が下がっておりますのは、その満了に伴いましてリース料の支払いが必要なくなるということで下がっているということでございます。

ですので、まずは中学校に導入して、そしてその後に小学校に導入していくということでございます。

以上でございます。

○木澤委員長 小村委員。

○小村委員 この間、情報教育の推進に関しましては、今年度予算すごく力を入れていただいて、私自身うれしく思っているんですけども、今の小学校のリースの更新時期で、そのまま使うということなんですけど、小学校の今デスクトップ型のパソコンで何年リースの契約でしたか。

○木澤委員長 安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 5年リースで契約しております。

○木澤委員長 小村委員。

○小村委員 パソコンとか結構入れかわりが激しいですけど、まだ5年やったらそのままリースでもいけるのかなというふうに理解させていただきました。情報教育の推進、本当に力を入れていただきまして、本当にありがとうございます。

続いての質問させていただきます。小中連携教育の実施、予算の概要85ページなんですけれども、この額が少し下がっておるんですけども、これ今まで小学校6年生が中学校に訪問したりとかという事業があったと思うんですけども、そういったものがなくなるというわけではなく、この予算額の減によって何かしなくなる事業があるのか等あれば教えていただきたい。

○木澤委員長 安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 A L Tの配置をふやしていこうということで、30年度におきましては、今小学校を担当しているA L Tが1人おるんですけども、それを2人にしていこうとしております。

今まではその1人の賃金をですね、この小中連携事業の中で予算計上しておったんです。今度、増員していくという中でですね、それをこの小中連携の事業から取り出してですね、別途臨時職員の賃金の中に組みかえておるんです。ですので、減っている分につきましては、今まで来ている1名のA L Tの賃金をここで減額して、そして臨時職員賃金のほうでそれをプラスして計上しているということでございます。

○木澤委員長 小村委員。

○小村委員 A L Tはでも2名にふえて、この予算の小中連携で賄っていたA L Tのお金を臨時職員の賃金、A L Tの賃金として予算化されているということは、A L Tの人数は変わらないということですか。

○木澤委員長 安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 A L Tはですね、2名で予算計上しております。ですので、その分、臨時職員賃金のほうで増額になっているということでございます。

○木澤委員長 暫時休憩します。

(午前9時05分 休憩)

(午前9時07分 再開)

○木澤委員長 再開いたします。

ほかにございませぬか。小村委員。

○小村委員 続いて、予算の概要86ページになんですけども、学習支援の実施についての予算額が少し下がっているんですけども、これは今までの傾向で、学習支援に関しては、今まで昨年度9月からの推移をちょっと教えていただきたいのと、この予算で前やっていた、平成29年度に行っていたことが賄えるということなのかということをお聞きしたいと思います。

○木澤委員長 安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 学習支援事業の利用状況ですけれども、きのう現在の利用状況なんですけど、小学校で69人、中学校で15名、全体で84名の利用がございませぬ。

この利用については、昨年から見てもですね、大きく変わってはいない状況です。大体これぐらいの数字で推移はしてきておるんです。

予算が今年度少なくなっておりますのは、予算計上の仕方なんですけれども、29年度におきましては、支援員の賃金を結構多めにといたらあれですけども、時間、4時から、小学校では4時から6時まで、中学校であれば3時半から5時半までという2時間あるんですが、その前後に準備片づけの時間も30分ほどとってませぬので、大体1日3時間ぐらいの勤務時間ということで計算をしておったんです。

それで支援員の人数、そして開設する日数をですね、マックスで予算計上、29年度しておったんですけども、30年度につきましては、そのより実態に、実績に応じてですね、予算計上しておりますので、ですのでその分、全体の予算額が少なくなっているということなんです。

特にその事業内容が変わったとかですね、日数に変更があつて予算の規模が縮小したとか、そういったものではございませぬので、ご理解いただきますよう、よろしくお願ひいたします。

○木澤委員長 小村委員。

○小村委員 予算が減になっているのは、次年度の、平成29年度のものを見て、内容自体は変わらないということで理解させていただきたいと思ひます。

全体的に英語教育への教科化への移行でありますとか、この学習支援に関しても引き

続きしていただけますし、情報教育も推進していただくということで、今回全体的に見て、すごく教育に力を入れてくれているなというふうに思っております。今後もしできれば学習支援の実施等をですね、例えば夏休みとか休暇のときに、特に学習の習慣というものが崩れる児童等がいますので、可能であるならば広げていただけたらと思います。要望というか、意見として言わせていただきます。以上です。

○木澤委員長 ほかにございませんか。平川委員。

○平川委員 まず、131ページの春日古墳の調査・研究なんですけれども、今年度外側からなんか最新の技術を使って中の空洞を確認したということなんですけれども、今後はどういう形で進めていかれるのでしょうか。

○木澤委員長 中原生涯学習課長。

○中原生涯学習課長 春日古墳の今後についてでございます。春日古墳につきましては、この29年度ですね、ミュオン調査という宇宙線を利用した調査を行いまして、春日古墳の中に一定の空洞を見つけたということの、2月の27日に春日古墳の検討委員会のほうで報告をされまして、その上でですね、検討委員会の先生方に今後どうするかというのをご指導いただきました。

その中で、今回の空洞が見つかったのは、平面上だけの分析でわかったことですので、30年度については、そのミュオン調査の精度を高めまして、もうちょっと3D的にといいですか、立体的に本当に空洞がどうなっているのかということをもっと見てみないと何ともまだ言えないというところで、そのミュオンの精度を高める調査と、あと気象の関係、植生をさらにもうちょっと調査を加えて、その結果をもってまた検討していきたいということになっております。

○木澤委員長 平川委員。

○平川委員 その調査自体は、費用面というのはどのくらいかかるものなのかということと、あと、空洞が見つかったということなんですけれども、そのそこの中に遺物があるとか、そのあたりの状況というのは、そういう調査でわかるものなのでしょうか。

○木澤委員長 中原生涯学習課長。

○中原生涯学習課長 1点目の費用についてでございますけれども、費用につきましては、橿原考古学研究所のほうで実施されますので、町としてはその費用発生は起こっておりません。

その中の遺物的なところなんですけれども、このミュオン調査というのは、宇宙線が土とか全て通っているわけなんですけれども、空洞の所だけ当然通る量が多くなりますの

で、空洞があることしかわからないので、そこに例えば石がある、遺物がある、それが石か遺物かというのは判断はできませんので、その空洞のみを知るところの調査でございます。

○木澤委員長 平川委員。

○平川委員 ということは、当面はその中の調査、具体的な調査にはちょっとまだ入らないところなんですかね。

○木澤委員長 中原生涯学習課長。

○中原生涯学習課長 そのとおりでございます。

○木澤委員長 平川委員。

○平川委員 あと、124ページの幼稚園のところの給料なんですけれども、昨年度の委員会で前町長ですけれども、幼稚園の園長について、その生え抜きの園長をしていただくということを進めていくというようなことをおっしゃっていたんですけれども、町長交代されて、新年度からはどういうふうにお考えなんでしょうか。

○木澤委員長 藤原教育長。

○藤原教育長 これは人事に関することでございますので、なかなかちょっと申し上げにくい、あるいはまた今後決めていくということで、まずご了解いただきたいと思うんですけども、基本的には、考え方としましては、やっぱり園運営に当たりましては、やっぱりその中の内部昇格によってですね、運営するのが本来の原則でなかろうかというふうには思っているところでございます。

○木澤委員長 平川委員。

○平川委員 前回の委員会の中でも、こう、やはり、その職員の方がやりがいを持ってやってくれるような体制を考えていただきたいということも要望させていただいて、そういう方向でという話もいただきましたので、そういう形でやりがいを持って職員の方が働ける環境づくりに努めていただきたいと思います。

先ほどの文化財の続きなんです。132ページの草刈り業務の委託料で372万円計上されているんですけれども、これが史跡中宮寺跡の管理のことなのかなというふうに思うんですけれども、これまでもその今後の維持管理どうするんですかという質問のときに、協働のまちづくりもあるので住民の方々の協力を得ながらというようなお答えだったかなと思うんですけれども、今回、こう372万円計上されているということは、やはりこうどこかに委託してという形になっていくのかな。そのあたりはいかがなんでしょう。

○木澤委員長 中原生涯学習課長。

○中原生涯学習課長 文化財保存費の草刈り業務委託料でございますけれども、この予算額372万7,000円のうちですね、中宮寺に係る分といたしましては247万9,000円を計上しているところでございます。

昨年度までも、この科目ではなく、中宮寺の所でも草刈りを組んでおりましたので、中宮寺だけの草刈り委託料で見ますと85万1,000円、29年度より上がっているところでございます。この委託につきましては、現在シルバーのほうに委託をしようと考えております。

また、ボランティア等のお話もございましたけれども、そちらの方は県道沿いの所にお花等を植えていきたいと思っておりますので、その辺の管理とか植えつけとか、ボランティアの方にご協力をいただければなというふうに考えているところでございます。

○木澤委員長 平川委員。

○平川委員 前、総務委員会で動物でというので、ちょっと笑いをかっていたんですけど、やはりそういうヤギだったりとか、そういうヤギの、実際にヤギを使って草刈りをしている所、まあこういう公園ではないですけども、ありますので、珍しいことであれば話題性にもなるかなと思いますし、もしそういう可能性があって、費用面で安くなるのであれば、そういう方法も一つかなというので検討していただきたいと思います。

あと、133ページの図書館のところですけども、先ほど電子図書館のお話がありましたけれども、実際にその利用できる本で、新刊本だったりとか、みんなが貸し出しでニーズの高い本というのがどの程度対象になっているのかなというので、利用者がふえるかふえないかというもそのあたりにかかってくるかと思うんですけど、現在のどういいうジャンルの本がどの程度対象になっているのか、わかりますでしょうか。

○木澤委員長 中原生涯学習課長。

○中原生涯学習課長 電子書籍の書籍コンテンツ、どんなものかというところですけども、やはり紙媒体とはまた違う電子媒体独自性のあるものをというところも考えておりましたので、平成29年度といたしましては、児童書の中で特に音声が出てくるものがありますとか、映像的なものが比較的多く参照できるような児童書、また暮らしの本等を中心に購入をしてきております。

30年度につきましては、さらにその辺の子育て支援の関係をですね、充実させていきたい。児童書もあわせてですけども、音声が出るというのは高齢者の方にも障害者の方にも非常に優しい形になりますので、電子書籍ができるところのものを充実してい

けたらなというふうに思っております。以上でございます。

○木澤委員長 平川委員。

○平川委員 そのあたりのニーズの把握というのはどうされているのかなど。私なんかは本は紙で読むほうが多くて、電子媒体で見るとしたら、それこそその必要な情報を取るための辞典的なものだったりとか、そういうのはデジタル化されてたら便利かなと思うんですけど、読むという本であれば紙のほうが、私なんかはそうなんですけれども、実際こういうことを利用されている世代の人とか、まずそういう電子図書に抵抗なく読まれている人たちというのはまた違うニーズがあるのかなと思うんですけど、そのあたりのニーズの把握というのはどうされてますでしょうか。

○木澤委員長 中原生涯学習課長。

○中原生涯学習課長 例えばですね、昨年度少し、今結果は持っておりませんが、法隆寺国際高校の子たちにですね、この電子書籍についてのふだん斑鳩の図書館のではありませんけども、使っているかとか、こういったジャンルが興味あるかとか、その辺のアンケート等はさせていただいて、そういったことも参考にしようと考えているところでございます。

○木澤委員長 平川委員。

○平川委員 先ほどの利用者数からして、その費用面で考えると、結構1人当たりの費用は結構今現時点では高いのかなというふうに思いますけれども、うちの子どもなんかはタブレットで普通に本を読んでいるので、その世代とか、そういう抵抗なく読まれる人たちにとっては、またこういうのがニーズとしてはあるのかなと思いますので、きちんとこうニーズを把握して利用しやすい形で考えていただきたいと思います。

あと、138ページの町民体育大会ですけども、以前、教育長の説明で、2月25日の自治会長さんたちを対象とした説明会で今後の方針についてお話をしたいという話だったんですけども、実際にちょっと自治会長さんに聞いたら、次年度以降の話は特にやるとかやらないとかいう話はなかったよという話を伺ったんですけど、どういう話をされてたのかなというところを、ちょっと確認させていただきたいと思います。

○木澤委員長 藤原教育長。

○藤原教育長 2月25日ですね、町民体育大会の説明会の席におきまして、これにつきましては、人数が多かったので、2回に分けてさせていただいております。

その中で、1回目のときにですね、開催をした中では、当然、これまでですね、不参加だった地区につきましては6地区、29年度の4月の開催におきましては6地区が不

参加ということの中で、そのうちの5地区は今回の説明会にも欠席をされております。

ただ、そのうちの1地区につきましてはですね、改めて意見を述べに来られてですね、自分とこの地区につきましては、高齢化あるいは少子化が進んでおって参加できる種目がないということで、地区の体育協会も解散をしましてということで意見をおっしゃいにこられたところが一つございました。

そういった中で、なかなかちょっと反対の意見というのは、そういう形で出にくい状況ではあったわけですが、多くの方からですね、開催についてですね、なぜやめるのかと、委員会でご説明しましたように、第60回この4月の大会をもってですね、終わらせていただきたいということをお話しさせていただきました。

そうした中で、なぜやめるのかと。自治会長の一部の自治会長のアンケートでは、不十分であると。実際のね、自治会の各自治会の総会に諮ったわけでない、そういったご意見がありましてですね、なぜやめていくのかということの中で、いろいろと意見が出てまいりました。

そういったことで、なかなかその場では反対の意見は出にくかったという状況もあるんですけども、そういった中で、いろいろなご意見がありましたので、改めて4月の大会が終わりましたら、改めて各地区の代表者にお集まりいただきましてですね、今後のあり方についていろいろとお話をさせていただくというのがいいんじゃないかというふうに思いましたので、そういう形で1回目につきましては、お話ししました。

そして、2回目につきましてはですね、そういった経緯もご説明をしながらですね、お話をさせていただきます、特に反対もないといいますか、その進め方でいいということでご了承いただきましたので、2回目はそのままお話をさせていただいたということでございます。

○木澤委員長 平川委員。

○平川委員 私が伺ったのは、2回目の説明会に出席していたということなので、中止を、この60回で終わるというよりも、今回、町民体育大会が終わった後に、もう一度話をするということの印象のほうが強かったのかなというふうに理解させていただきました。

あと、昨年度欠席された6地区のうち5地区欠席で、さらにもう1地区も出席できないと、参加できないという表明があったということなんですけど、4月のその大会については、その6地区以外は前年と同じ地区が参加される予定というふうに理解してよろしいんですか。

○木澤委員長 藤原教育長。

- 藤原教育長 今その中で不参加を表明されたところは聞いておりません。
- 木澤委員長 平川委員。
- 平川委員 そういう形で、じゃあ進めていっていただけたらと思います。
- 木澤委員長 ほかにございませんか。奥村委員。
- 奥村委員 概要の87ページ、小学校の学校図書の整備というところでございますけれども、この予算つけていただいております、この各学校にどれぐらいの予算をそれぞれ配置をしておられるのでしょうか。
- 木澤委員長 安藤教委総務課長。
- 安藤教委総務課長 小学校の学校図書の整備ということで180万ございますけれども、各校60万円ずつの配分をしております。
- 木澤委員長 奥村委員。
- 奥村委員 ありがとうございます。それで、新しいものを入れたら必ず古いものを廃棄していくというように思いますけれども、この古い図書を廃棄していく場合は、学校司書さんに任せてされておられるのか。最終的にどういうように、これは廃棄すると決めていかれるのか、お願いします。
- 木澤委員長 安藤教委総務課長。
- 安藤教委総務課長 小学校にはですね、3校で1名ですね学校図書司書、また中学校には2校で1名の図書司書を配置しております。その学校図書司書が中心となっておりますね、各学校には教諭の中でもですね、図書担当というのが専任しておりますので、そういう学校図書司書もしくは学校の担任の教諭がですね、内容が古いものであるとかですね、また最近の子どもたちが興味、関心を示すような図書を購入したりとかですね、そういう選定をしながら入れかえを行っておるという状況でございます。
- 木澤委員長 奥村委員。
- 奥村委員 ありがとうございます。

次に、予算書の115ページ、心の教室相談というスクールカウンセラー事業費のところでございますけれども、各学校にスクールカウンセラー担当されておるとは思いますけれども、巡回されておるとは思いますけれども、これは生徒とどのようにかかわって心の、カウンセリングをしていっておられるのでしょうか。

- 木澤委員長 安藤教委総務課長。
- 安藤教委総務課長 このスクールカウンセラー事業費の費目におきましてはですね、心の教室相談員ということで、これは教員免許を持っている者がですね、その担当をして

いるということでございます。

中学校では、やはりその学力であるとか友人関係であるとかですね、さまざまな悩み事を抱えておりますので、教員免許を持っておった者がですね、いつでも気軽に話ができるように、指定された日にち、時間帯をですね、あらかじめ周知はしておりまして、そこへいつでも気軽に参加できるように、そういう体制を設けております。

スクールカウンセラーにつきましては、県の派遣を受けておりまして、これは臨床心理士の資格を持つ者でございます。おおむね両中学校とも2週間に1回程度でございますけれども、各学校にその日はこちらへ出向いてもらってですね、そこで相談を受けるというような体制をとっております。

○木澤委員長 奥村委員。

○奥村委員 そのスクールカウンセラーの方が生徒さんと教室かどこかの部屋で相対して相談を受けておられると思うんですけども、年間どれくらいの実績というか、そういうのは把握されておられますでしょうか。

○木澤委員長 安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 スクールカウンセラーですけども、年間です、105時間のこの県の派遣につきましてはですね、その時間に基づいて年間で配分しますと、大体2週間に1回程度の配置になるという状況でございます。

○木澤委員長 奥村委員。

○奥村委員 その生徒さんは何人くらい相談受けられたかというのはわかりませんか。

○木澤委員長 暫時休憩します。

(午前9時33分 休憩)

(午前9時34分 再開)

○木澤委員長 再開いたします。

安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 ただいま持ち合わせておりませんので、後ほどご報告させていただきます。

○木澤委員長 奥村委員。

○奥村委員 そしたら、概要の92ページの青少年悩みごと相談の実施というところがございますけれども、これは青少年の悩みごとを中央公民館でされているということですけども、どれくらいの方がここに来られるのでしょうか。

○木澤委員長 中原生涯学習課長。

○中原生涯学習課長 中央公民館で実施しております青少年悩みごと相談ですけれども、この29年度2月末で95件ございました。参考に昨年度28年度同時期では96件でしたので、ほぼ同数の利用でございます。

ただいま申しました件数ですけれども、直接中央公民館に来られた件数と電話で中央公民館の相談室に電話をかけられた件数の合計での数字となります。

○木澤委員長 内訳はわかりますか。中原生涯学習課長。

○中原生涯学習課長 29年度、現在持ち合わせておらないんですけれども、昨年度の状況的にはですね、このうち47回が電話ということですね、ほぼ半数が電話での状況となっているところでございます。

○木澤委員長 奥村委員。

○奥村委員 そして、この担当に当たってくださっている方というのは、どういう方でしょうか。

○木澤委員長 中原生涯学習課長。

○中原生涯学習課長 この相談員ですけれども、中央公民館で臨時職員として雇用をしております相談員として、元校長先生とかの経験もある方を雇用して相談員として実施していただいております。

○木澤委員長 奥村委員。

○奥村委員 元校長先生、お1人ということよろしいですか。

○木澤委員長 中原生涯学習課長。

○中原生涯学習課長 はい、1人で対応していただいているところでございます。

○木澤委員長 ほかにございませんか。小林委員。

○小林委員 小学校、中学校の図書館整備について、図書館の図書整備計画に基づいて適切な予算措置されているのか、ちょっと確認ですけれども、平成30年度は各小学校、中学校に年間60万円ということでお聞きいたしましたけれども、これ総額的には地方交付税の措置の積算に基づく図書館整備費でどれぐらいなのか。また図書館の図書標準の達成率、大体どれぐらいなのか、教えていただきたいと思っております。

○木澤委員長 小林委員。

○小林委員 基づいて適切に整備していただいていると思うんですけど、じゃあですね、これ、平成29年度からですけれども、これに伴って新聞とか入れられたんですか。それとも前から斑鳩町は学校図書充実していたから、これ平成29年度から新たな予算措置入りましたけれども、新聞のほうも予算措置していただいて、置いていただい

ているのか、その1点だけ確認。

○木澤委員長 答弁できますか。

暫時休憩します。

(午前9時38分 休憩)

(午前9時40分 再開)

○木澤委員長 再開いたします。

安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 後ほどご答弁させていただきたいと思います。

○木澤委員長 小林委員。

○小林委員 あと1点。また夏秋に各小学校、中学校の理科の実験用具とかですね、その要望、予算措置しっかりと各市町村してますか、してなかったら国のほうの予算とってくださいねみたいな、国のほうが、とある団体さんがお金が余っているから予算とってくださいませんかみたいな陳情が議会に毎年あがってきますので、その前にですね、各小学校、中学校は各学校からの理科とかに関する実験とかの要望に対する予算措置でどういうふうにされたのか、平成30年度についてお聞かせさせていただきたいと思います。

○木澤委員長 安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 理科備品につきましては、各学校から予算要望、ヒアリングを受ける中でですね、必要なもの上げて、必要なものを要望を受けてですね、それを予算計上しているということでございます。

例えば30年度で申し上げますと、例えば中学校ではですね、生物顕微鏡であるとか、電子天秤であるとかですね、人体解剖模型とかですね、そういった学校が必要とするものをですね、予算計上させていただいております。

以上でございます。

○木澤委員長 小林委員。

○小林委員 適切な予算措置をさせていただいているという認識でさせていただきます。ありがとうございます。

○木澤委員長 ほかにございませんか。平川委員。

○平川委員 124ページの幼稚園費なんですけれども、資料をお願いしてまして、幼稚園の園児数の見込みということで資料を出していただいたんですけれども、定員に比べると非常に少ないなというふうな印象を受けたんですが、このところの傾向と、ちょっと今後の見通しをお伺いできますでしょうか。

○木澤委員長 安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 各町立幼稚園のですね、園児数の見込みということですね、資料のほうでは、全体で181名というふうになっております。29年のこれ5月1日現在で申し上げましたら、219名おりました。平成28年の5月1日では241名おりました。確かに園児数は少なくなっているという状況でございます。

全体、例えば保育園の子供であるとかですね、私立幼稚園の子供の状況を見てますと、子供の数というのは、ここ3年で見ると大きくは変わっていない。全体の子供の数は変わっていない。横ばいのような状況にはなっております。

そうした中で、黎明保育園というのが設置されましたので、黎明保育園の子供はこの3年間見ますとやはりふえている傾向にございますので、やはりそういう新たな需要というんでしょうかね、に基づいて、そういう施設ができたというところも背景にはあるのかなというふうには考えております。

今後の見通しにつきましてもですね、子供の数というのは、少子化傾向にあるとはいっても、幸い斑鳩町はですね、そんな大きく急に下がるようなことはないだろうというふうには考えておまして、正直、状況はですね、推移を見守っていかなければちょっと何とも言えないというような状況でございます。

以上でございます。

○木澤委員長 平川委員。

○平川委員 きのうの委員会の中で、町立の保育所の入所見込み数についても資料で出させていただいたんですけども、黎明が今年度、新年度、定員もふえるということで、町立の保育所も若干その影響で減るのかなと思ってたら、そうでもないということで、私立が定員がふえても、町立の保育所自体は減っている状況でもないということなので、そういう中でニーズというのはやはり保育所のほうがニーズが高くなってきて、さらにその町立保育所についてもまだまだニーズがあるという中で、この幼稚園3園、今後ずっと維持していくのか。もしくはそのいろいろこう評価はあると思うんですけども、認定こども園、幼保連携型の認定こども園みたいな方向を模索していくのか、幼稚園を統合していくのかというところが、今後の推移を見守る中で一定の検討をしていく時期もくるのかなというふうには思ったんですけども、そのあたりはいかがでしょうか。現段階としては。

○木澤委員長 藤原教育長。

○藤原教育長 今委員さんおっしゃいますようにですね、将来的にはそういったことも含

めて検討していく時期が来るのかなというふうに思ってますけども、今のところはですね、この推移をもう少し見守っていききたいなというふうに思っております。

○木澤委員長 平川委員。

○平川委員 現段階ではそうかと思えます。今後そういう傾向がさらに進んでいって、町立の保育所であっても、まだまだニーズが高くて、逆にその待機も出る可能性もあるとかいうような状況が見込まれるようなことがあるのであれば、またそういう方向性も視野に入れて検討していただけたらなというふうに思います。

○木澤委員長 今の話ですけども、やっぱりきちっとニーズを把握して対応していかないかんというふうに思うんです。特に子育て支援計画については見直しの時期も来てますので、もともとだから幼稚園にお子さん通わせている御家庭と保育園に通わせている御家庭とじゃ、その親御さんの働き方の関係とかもありますので、単純にだから幼稚園から保育園というふうに変まっているのか、そこの動向がどうなっているのかというのはやっぱりよくよく調査をしていただく必要があると思えます。

動向を見守る必要もありますけども、そこはちょっと答弁聞いてて、どういうふうにご考えているのか、よく把握できなかつたんですけど、そこはどう考えてはるんでしょうか。

藤原教育長。

○藤原教育長 今委員長おっしゃいましたようにですね、その動向の把握というのは大変重要なことだと思っております。ただそういった中にいろいろとお聞きする中では、いろんなご意見がございます。例えばですね、幼稚園を全部給食化したということによってお母さん、保護者の方がですね、子供さんに弁当をつくる楽しみがなくなったと、そういう意見もありましてね、そういったいろんな意見がある中で、実際にどこがこういう形になっているのかというのがなかなか今現在いろいろお聞きしている中ではつかみにくいということで、今後もそういったことで把握には努めていきたいと思っております。

○木澤委員長 今回その計画の見直しに当たって、アンケートする中に、そういうニーズは把握できるような項目というのは入っているんですか。

加藤健康福祉部次長。

○加藤健康福祉部次長 先ほどからおっしゃってます子ども子育て支援計画というのを、来年、再来年度の2カ年で策定をさせていただきます。その中で、就学前のお子様をお持ちの世帯、それと小学校にお通いになっている保護者の世帯等を対象に調査をさせて

いただきますので、そのあたりで今おっしゃっています保育所の関係ですとか、今後のそういった幼稚園も含めまして、今後の利用の見込みというのを立てていく必要がございますので、そういった中で、今おっしゃっておられるニーズの把握については調査項目を設けて調査のほうさせていただきたいというふうに考えております。

○木澤委員長 そうでしたら、対応方、よろしく願いいたします。

ほかにございませんでしょうか。坂口委員。

○坂口委員 予算の概要の84ページに夜間中学校の運営というのがあるんですけど、斑鳩町にはないと思うんですけど、町内在籍者に必要な経費を負担するということですが、どれぐらいの方がおられて、どのようなことをされるのか、ちょっとわかれば教えていただきたいです。

○木澤委員長 安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 平成30年度です、計上しておりますのは、1名外国人の方でございます。町内で仕事をされている方なんですけれども、その上で、日本語もしくは日本の文化等々ですね、学習したいというご意向がございました。

夜間中学校そのものは奈良市のほうで開設されております。そこに登校するというか、在籍することになりまして、その経費に係る一部をですね、負担金として30年度予算で計上しているという状況でございます。

○木澤委員長 ごめんなさい、ちょっと聞き漏らしたかもしれません。これ、斑鳩町内でやっているということじゃないんですか。どこか場所ほかにあつて。

安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 夜間中学校そのものはですね、奈良市、春日中学校で開設をされておられます。

○木澤委員長 わかりました。

ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○木澤委員長 そしたら、私のほうから幾つかお尋ねしたいと思うんですけども、まず、先ほどもお話ありましたが、学習支援の関係ですね。これ予算額減っているっていうことで、先ほど内容的には変わらないというふうにおっしゃったんですけども、そもそもこれまで予算立てをするのに見込んできた人数ですね。これ、だから昨年から比べると、30年度ではどういうふうになっているんでしょうか。

安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 まず利用者の見込みなんですけれども、小学校で100名、そして中学校で40名の利用を見込んでおります。

開設の時間であるとか日数はですね、変更はございません。この予算の内訳、大きなものは支援員、指導員のその賃金が主なものになってまいります。

単価でございますけれども、単価で申しましたら、1時間当たり1,100円の単価を支給しております。そして支払いの月数、年間、夏休みは実施しておりませんので、11カ月の計算で、あと29年度の実績、実際29年度の月ごとの実績、何時間働いたか実績がございますので、その時間をもとに平成30年度の賃金を計上しております。

賃金のみで申し上げますと、209万4,000円の賃金ですね、計上しているというような状況でございます。

○木澤委員長 見込みが小学校で100人と中学校で40人で、実際には今69人と15人ということで、先ほどおっしゃっていたかというふうに思うんですけども、その指導員というのか支援員というのか、名称ちょっとわかりませんが、方の、必要な人数というのは、今の申し込みされている児童数に対しては確保されているというふうに思うんですけども、この見込んでいる方が全員申し込まれたとしても対応できるような数の支援員というんですかね、方の人数は確保できているんですかね。

前はそのなかなかいないということで苦勞されていたかというふうに思うんですけども、その関係と予算の立て方というのはどういうふうになっているんでしょうか。

安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 今、指導員なんですけれども、全体で21名おります。今のところはですね、この人数で回れている状況でございますけれども、確かに定員というか、いっぱいいっぱいになりますと、また新たに補充をしていかなければならないというようなことも考えております。その際は、今現在でも随時ですね、募集かけておりまして、登録制みたいな形とっておりますので、できるだけですね、登録をふやして、ローテーション組みながらいつでも入れるような形をですね、そういった面では、そこを充実していきたいというふうに思っております。

○木澤委員長 それだから、指導員が新たに必要になったときにはこの当初予算の枠で対応できるということになるんですかね。それか新たに補正予算組んでというふうに考えてはるのか。そこはどうなんですかね。実績から当初予算の賃金、こういう形で計上されたということですけども。

安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 実績ベースですので、子供の数がふえればですね、当然支援員も配置をですね、ふやしていくこともございますので、ですのでその状況によれば、委員長おっしゃったように、補正予算等の対応も必要になろうかというふうに考えております。

○木澤委員長 この予算の組み方ですね、両面から見れると思うんですけども、一つは当初予算できちっと予算を確保してないということは、目標にしている見込みの人数の分の規模で展開するつもりがあるのかという面と、それか実績に基づいて適正な予算を組んでいるという見方と両方あると思うんですけども、前々からですね、この事業については、年度当初の見込み人数というのは実績とちょっとやっぱりかけ離れているということで指摘をさせていただいてきましたけども、それやはり実際に申し込まれる方がこの人数なんで、実績としてはそうなんですけども、やはり努力していただいて、きちっとやっぱり適正な規模で事業展開をしていただくということが必要だというふうに思うんです。

私、前々から、もともと塾に通うだけの金額を出せないような御家庭を対象にして学習支援をしようということなので、その費用負担の導入をするべきじゃないというふうに申し上げてきた経緯はあるんですけども、ですので、やっぱりそういう面から見ても、予算額としてですね、実績からして、前年度よりも少なくて済むというのであれば、その費用負担をなくしていくという方向にその予算を回していくということも一つ考えられるんじゃないかなというふうに思うんですけども、そこはどのようなふうに考えてはるんでしょうかね。

安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 この学習支援事業につきましては、やっぱり学校教育とは異なるものでございます。そうした中でですね、一定のその教材等々も配布しておりますので、そうしたものに係る費用負担相当分ということでですね、利用者負担をいただくということは必要であるというふうには考えております。

そうした中で始めた制度でございますけれども、ご意見いただく中で、減免制度も、低所得者に負担配慮をするという中でですね、減免制度を設けてきたものでもございますので、やはり応分の負担はですね、していただくというふうには考えております。

○木澤委員長 これまで答弁されてきた考え方から変更はないという答えだというふうに思うんですけども、実際に見込んでいる規模よりも申し込みが少ないというのはやっぱり何か理由があって申し込めない人がいるというふうに私は思うんです。

そこにやっぱり費用負担の問題がかかわってくると思われますので、これについては

私は引き続き減免制度自体つくられたのは評価はしてはいますが、やはりもともとの趣旨として、低所得の方々の一応対策という面もある中ですね、そもそも費用負担を持ち込むということ自体がいかげんなものかというふうに思っていましたので、これについては引き続き町として考え方を改めていただくように求めておきたいというふうに思います。

そうしましたら、次にですね、予算の概要のほうの87ページですね。小学校講師の配置のところで、これまでも町費講師を採用していただいていると思います。これ中学校のほうも町費講師採用して、町として1・2年生、小学校1・2年生は30人学級編制と、小学校3年生から中学校3年生までは35人学級編制ということで運営されてきてはいますが、今、町費講師の方の人数ですね、何人採用されているのかというのと、あとこの特別支援の関係でもふやしていただいていますけれども、これはどういう状況になっているのかというのを確認させていただきたいと思います。

安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 学校講師のですね、まず現状を申し上げますと、小学校の少人数学級対応の講師が5名、そして特別支援の対応が4名おります。中学校はですね、少人数学級対応が2名、そして中学校は教科担任制でございますので、教科補充という形で講師を配置しております。それが2名おります。ですので、小学校では9名、そして中学校では4名の講師を配置しております。

30年度の予算の状況でございますけれども、小学校のほうはですね、少人数学級対応がですね4名、そして特別支援の対応が6名ですね。予算計上しております。

小学校につきましては、県の少人数加配というのがございますので、そのあたりから4名ということで積算しております。中学校につきましては、30年度予算、少人数学級対応が4名、そして教科補充のものが1名ということで現在予算計上しているという状況でございます。

○木澤委員長 特別支援のほうは県からの来る方が減ったというか、足りないからその分ふやすというのか、それか、何かその特別支援のクラスがふえたとか、状況はどんなふうになっているでしょうかね。

安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 特別支援のほうで4名から6名にふやしておりますのは、決して県の配置が少なくなったとかではなくてですね、現状、特別支援学級に入級する子供というのがふえております。

例えば、平成29年度の状況で申し上げましたら、小学校で61名の入級者が現状ございます。3年前、平成27年で申し上げましたら48名でございました。やはりふえる傾向にありましてですね、特にやはり情緒的な障害を持つ子供さんというのがふえております。

そうした中で、特別支援教育をきめ細やかに対応していかなければならないという中でですね、これは町独自で今回2名ふやしたと、そういう状況でございます。

○木澤委員長 わかりました。特別支援のクラスにつきましては、やっぱりふえているということなんで、対応方というのは国県ときちっとやっぱりどういう方向で対応していくのかと、やっぱり充実強化をしていくということについても、町単独では対応し切れない部分というのも出てくるかと思しますので、しっかり声も上げていただきたいというのと、今回こういうふうに町として講師の方を採用して対応されるというのは評価できるものだというふうに思います。

これまでも言ってきたんですけども、前町長の際はですね、もともと30人学級編制してたのが35人学級編制になったということで、私はそれは後退だというふうに指摘をしてきたんですけども、改めて町長がかわられてですね、その30人学級編制についての考え方を改めてお聞きしておきたいなというふうに思うんですけども。

今、小学校1・2年生は30人学級と、小学校3年生から中学校3年生までは35人学級だということでされてますけども、今後この30人学級編制について充実をしていこうというふうに考えてはるのか、その辺のところですね、どのようにお考えなのか、お聞きしておきたいと思います。

中西町長。

○中西町長 今、委員長のほうから指摘ありました件でございますけれども、私もこの件についていろいろと話を聞かせていただいている中で、今の現状やはり維持していけたらというような考えを持っておりますのでよろしくお願いします。

○木澤委員長 はい。私も30人学級の充実を目指すというのを今後も町のほうには求めていきたいというふうに思うんですけども、いろんな面で、先ほどの特別支援学級の講師も含めてですね、町単独で講師を確保していくというのが厳しいという、いろんなしんどさがあるというのは担当のほうからもお聞きする中でですね、やはりできる限り充実をするという方向性を持っていただきたいなというふうに思うんです。

そんな中でも、特別支援のほうですね、力を今回割いていただいているのかなというふうに理解はしておきますけども、この点につきましては、今国のほうがですね、教師

自体の枠を減らそうとしてきている中で、その辺のしんどさもあるのかなど。ただこれはやっぱりきちっと国や県に対しても、今学校の現状なんか見ていると、特に教員の方も大変ですし、保護者からもやっぱり先生の数をもっとふやしてほしいという声もありますので、そのことも含めてですね、国や県に意見を上げていっていただくこともあわせて要望しておきたいというふうに思います。

そしたら、次にですね、117ページのところの、これもこれまでお尋ねしてはありますが、副読本で使っていた「なかま」の本ですね。今後、まだもうちょっと先ですが、道徳が教科化される中で、この副読本の扱いというのはどういうふうになっていくのでしょうかね。

安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 「なかま」なんですけれども、現在は発行されておられません。それにかわるものとしてですね、「なかまとともに」という補助教材なんですけれども、これが無償で配布されています。ですので、29年度におきましても当然「なかま」の購入がございませんし、30年度も購入することはないということでございます。

道徳が教科化される中でですね、当然授業はですね、その道徳の教科書を中心に進めていくわけなんですけれども、この「なかまとともに」というのは、奈良県内の人権にかかわる教材をそこに取り入れているということでございますので、地域のことを学習するという点ではですね、その「なかまとともに」という形で活用していくというふうになるかと、そのように考えております。

○木澤委員長 すみません。私、知らなかったんですけども、その「なかま」の本の発行がもう終わってますよと、してないですよというのはいつからの話なんですか。

安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 平成の26年度でですね、そこまでは購入はしておりましたけれども、平成27年度以降は購入していないという状況になっております。

○木澤委員長 そのかわった「なかまとともに」という本にもう今は置きかわっているという話ですか。

安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 今現状、置きかわっております。かわっております。

○木澤委員長 わかりました。

あと、ここで議論するのもどうかと思うんで、ちょっと一言だけ言っておきますが、町民体育大会の話ですね。これまで議会のほうに対して報告もいただいて、実行委員会

したところ、もう反対も賛成の声もあって、最終的に次年度ですね、やって、それをもう最後にするというので、前回というか、これまで報告いただいた分については、それで話は一応納得いただいたというふうにお聞きをしてたんですけども、今回改めて説明会されてそういう状況になったということですので、今後のあり方について、またこれは担当の総務常任委員会でまた意見も言わせてもらおうと思いますけども、ちょっとやっぱりそのきちっとじっくりと構えて対応するべきなのかなと。余り性急に結論出そうとしないほうがいいのかというふうにちょっと感じましたので、またこれは担当の常任委員会で議論させていただきたいと思います。

ただ、予算計上としては、こういう形でされて、備品については新たに購入するというので説明ありましたので、このことについては了解しておきたいと思います。

そしたら、私のほうからは以上で。以上にしときます。

伴議長。

○伴議長 いろいろ議論を聞かせていただいた中で、ちょっと私確認させていただきたいんですけど、まず、この予算の概要の86ページの一番上の学習支援の実施なんですけど、これ先ほど答えはなかったですが、やはりその有料、無料、また有料にするからちょっと人数が集まりにくいというような、そういう意見もあったんですけど、もう一度確認しますが、この金額何ぼでしたかな、この学習支援の。

○木澤委員長 安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長 月額1,000円でございます。

○木澤委員長 伴議長。

○伴議長 正直言って、それぞれ考え方、また負担の見方というのはあると思いますが、月額1,000円であれば、それ逆に言えば、この何でも無料ということが決していいことじゃないといえますか、やはり全て無料ということが決して子供の教育にとってもいいことではないのと違うかなと、私自身はそんな形で思い、またその有料だからその1,000円徴収があるからふえないのじゃない。ほかの原因があるんじゃないかなというように思うんですけど、ちょっとそのあたり、見解として、有料無料によって違う、そういう声も出ているのか、ちょっとお聞きしたいんですけど。

○木澤委員長 藤原教育長。

○藤原教育長 先ほど課長のほうからも申しあげましたように、月額1,000円という内容につきましては、教材費がかかっておるという形で、本来的には受益者負担ということを考えれば、当然ながらですね、それに必要な支援員の賃金等も考慮して決めてい

くのが筋だろうかと思っておりますけども、基本的には1,000円というのは実費負担に近い受益者負担であるというふうにお考えいただきたいと思っております。

この支援の考え方につきましてですね、いろいろあろうかと思っておりますけども、基本的には経済的にですね、塾へ通わせないというようなお子さんの学習の支援になればということが一番の基本であろうと思っております。

したがって、これが塾にかわるものではないということをご理解をいただきたいなと思っております。

○木澤委員長 伴議長。

○伴議長 その辺、声を聞きながら、していただきたらと思っておりますが、今現状というのは決して悪いことはないんじゃないかと、私自身はそう思います。

あともう一つ今話聞いていて、クラスの小中学校の人数、ちょっと町長の答弁があったんですが、これやっぱり私自身は少ないのが子供のためになるのか、何人が一番適正な数になるのか非常に難しい問題だと思うんですね。

まあいえば、自分を思い起こしても45人前後のクラスのとときに私は小中学校を過ごさせていただきましたけど、決してそのときに多過ぎるなという感じ、逆にいろんな友達、友人、このいろんな個性があって、それも勉強になったという部分もありますし、非常にこのあたりよく検討して、子供の視点といいますか、子供が一番ええ形というのを見ていただいて、推移を見ながら人数というのを考えていただければと、私自身はこんな形で思いますので、そのあたりは要望しておきます。

以上です。

○木澤委員長 小村委員。

○小村委員 私も今の議論を聞いている中で、学習支援につきましても、受益者負担、今教育長おっしゃったようにですね、教材費もかかっていると。ほとんど月1,000円という形で、この学習支援をどう捉えるかだと思うんです。これが塾に行けない子供とか、塾の補完になっている。この学習支援をいきながら塾に行っている子とかもいてるんです。

塾で多くの時間を授業としてとれば、それだけのお金がかかるんで、塾ちょっとだけ行って、この学習支援も行くよという方もいますし、そういった意味でも、僕自身は料金を取って、やはりその勉強をやりたいけれども、今の受験制度の中でですね、私立受験の高校受験の問題とかですね、学校の授業の中では賄えないようなものも結構僕はあると思っているので、そういったところを、塾に行くのはしんどいけれども、この学

習支援で支援員の方に教えてもらうというような、そういった側面があると思ってます。

その中で受益者負担を、私はこれ取っていくべきだというふうに思います。

また、僕はこの人数がふえて、目標値にふえていっていないというのは、やはりまだ周知のほうที่足りないのかなと。私自身その小学生や中学生に声をかけてですね、学習支援行っているかと、学習支援であるの知ってるかって聞いてもまだなかなか認知されていないという現状が正直言っております。

また、支援員の方が子供たちに声をかけてですね、来いや来いやという形でやっている所は人数がある程度多くなっているというふうに、私は現場を見てて認識してますので、そういった意味で、周知のほうにもう少し力を入れていただきたいなというふうに思っています。

これは無料になったらって人がふえるという意見もあるとは思いますが、私自身はまた違った見方をしているので、どちらが正しいのかというのはまた調査して、今後のことについては考えていただきたいなと思います。

続いて、その30人学級なんですけども、この問題についても1回PTAのほうで多分アンケートはとられて、教育委員会のほうに上がっているとは思いますが、そのアンケート結果の中では、やはり友達が今、議長もおっしゃいましたが、友達が多くなってよかったよという、おおむねそっちのほうが多かったと私記憶しているんです。やっぱり、そのニーズを見ながら、この制度については、今後検討していただきたいなと思いますので、いろいろな意見があるということも理事者の方にも知っていただきたいなというふうに思います。

以上です。

○木澤委員長　まあまあ、予算の委員会なので、余り内容のことまでは踏み込んでというのはこの辺にしておきたいと思います。

ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○木澤委員長　それでは、以上で教育委員会所管に係る予算についての審査を終わります。

以上をもちまして、当委員会に付託されました各会計の予算の審査を終わります。

安藤教委総務課長。

○安藤教委総務課長　申しわけございませんでした。まずですね、奥村委員ご質問いただきましたスクールカウンセラーの状況でございます。

平成30年のですね、2月末現在の状況でございますけれども、相談件数で222件

ございます。斑鳩中学校が111件、斑鳩南中学校でもですね、同じく111件の相談件数を受けております。

先ほどの配置の時間なんですけれども、17日、そして年間で105時間と。

年間で17日、そして時間に直しますと105時間、1日当たり約6時間の配置しているというような状況でございます。

あともう1点、小林議員ご質問いただきました学校図書の関係でございます。

まず、中学校につきましては、標準冊数をですね、いずれもオーバーしていると。基準をクリアしているという状況でございます。

小学校につきましては、斑鳩小学校のみですね、平成30年度の基準冊数というのが1万2,560冊になるんですけれども、今年度末の状況では、1万1,714というふうに見込んでおまして、約850冊ほどですね、まだ足りないという状況になってございますので、この分については充実を図っていくというふうに考えております。

新聞なんですけれども、学校図書としてのですね、新聞というのは、現在、図書館、学校図書室の中にはですね、置いてない状況でございますので、今後その新聞の設置につきましては、また検討していきたいというふうに考えております。以上です。

○木澤委員長 ただいま、先ほど各委員から質疑があったことに対して改めて答弁がございましたけれども、それに対して質疑等ございますか。

小林委員。

○小林委員 ご答弁いただきまして、やっぱり斑鳩町のほうでは充実したというか、しっかりとした予算措置していただいているんだなという認識させていただきました。

国において、平均で小学校で56%、中学校で47%という結果も出てますので、その中で本当に適切な予算措置していただいているということで、ありがとうございます。

○木澤委員長 それでは、以上で教育委員会所管に係る予算についての審査を終わります。

以上をもちまして、当委員会に付託されました各会計の予算の審査を終わります。

審査結果についてとりまとめのため、10時45分まで休憩いたします。

(午前10時26分 休憩)

(午前10時45分 再開)

○木澤委員長 それでは、再開いたします。

それでは、これより、議案第23号から議案第28号までの6議案につきまして、順に採決してまいります。

初めに、議案第23号 平成30年度斑鳩町一般会計予算についてお諮りいたします。

本案については、当委員会として、原案どおり可決すべきものと決することにご異議
ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○木澤委員長 異議なしと認めます。

よって、議案第23号 平成30年度斑鳩町一般会計予算については、当委員会とし
て、満場一致で可決すべきものと決しました。

次に、議案第24号 平成30年度斑鳩町国民健康保険事業特別会計予算についてお
諮りいたします。

本案については、当委員会として、原案どおり可決すべきものと決することにご異議
ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○木澤委員長 異議なしと認めます。

よって、議案第24号 平成30年度斑鳩町国民健康保険事業特別会計予算について
は、当委員会として、満場一致で可決すべきものと決しました。

次に、議案第25号 平成30年度斑鳩町介護保険事業特別会計予算についてお諮り
いたします。

本案については、当委員会として、原案どおり可決すべきものと決することにご異議
ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○木澤委員長 異議なしと認めます。

よって、議案第25号 平成30年度斑鳩町介護保険事業特別会計予算については、
当委員会として、満場一致で可決すべきものと決しました。

次に、議案第26号 平成30年度斑鳩町後期高齢者医療特別会計予算についてお諮
りいたします。

本案については、当委員会として、原案どおり可決すべきものと決することにご異議
ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○木澤委員長 異議なしと認めます。

よって、議案第26号 平成30年度斑鳩町後期高齢者医療特別会計予算については、
当委員会として、満場一致で可決すべきものと決しました。

次に、議案第27号 平成30年度斑鳩町水道事業会計予算についてお諮りいたしま

す。

本案については、当委員会として、原案どおり可決すべきものと決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○木澤委員長 異議なしと認めます。

よって、議案第27号 平成30年度斑鳩町水道事業会計予算については、当委員会として、満場一致で可決すべきものと決しました。

次に、議案第28号 平成30年度斑鳩町下水道事業会計予算についてお諮りいたします。

本案については、当委員会として、原案どおり可決すべきものと決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○木澤委員長 異議なしと認めます。

よって、議案第28号 平成30年度斑鳩町下水道事業会計予算については、当委員会として、満場一致で可決すべきものと決しました。

以上をもちまして、本会議から付託を受けました平成30年度の予算審査はすべて終了いたしました。

なお、当委員会の審査結果報告については正副委員長にご一任いただきたいと思いますと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○木澤委員長 異議なしと認めます。

それでは、閉会に当たり、町長の挨拶をお受けいたします。

中西町長。

○中西町長 委員皆様方におかれましてはですね、3日間慎重審議していただきまして本当にありがとうございます。また、付託となつてました議案につきまして、23号から28号まで委員会として満場一致というお答えいただきまして本当にありがとうございます。また委員長はじめ、委員の皆様方におかれましても、この委員会の運営に対しまして、スムーズな運営という形で運んでいただきましたこと、厚くお礼を申し上げまして簡単ではございますけども、ご挨拶とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

○木澤委員長 皆さんには、3日間にわたり熱心に審査を賜り、誠にありがとうございます。

した。

これをもって、予算審査特別委員会を閉会いたします。

どうもお疲れさまでした。

(午前 10 時 49 分 閉会)